

森に住まう

-第2報 ハーフセルフビルドの家、インフラが整うまで-

■我妻 亨

まずは近況報告から

みなさんご沙汰しています。

昨年の報告では2022年12月時点で地面と空を手に入れたところまでお話ししましたが、その後音信が途絶えてしましますみません。2024年6月末にやっと外壁貼りが終わり足場がとれNAKEDになりました。近所に住む移住者やかつて日産デザインと一緒に仕事をした人たちに外壁貼りを手伝ってもらいながらここまで来ることができました。

この場を借りて渡辺(悦)さん、長澤さん、藤井さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

7月の第一日曜には地区の保存行事である御神楽がやって来ました。慶事のある家を回って舞うのだそうです。江戸時代から続いているそうで、地区の人たちが代々伝え継いでいる獅子舞で、ゆったりとした唄、笛、太鼓に合わせて獅子が舞う姿を見ていると地区に一步踏みこめた気持ちになりました。



舞の後はお振舞いということで、お酒やお茶を出して、ひとしきり話をすることができました。顔を知ってもらっているだけでなく住んでいる場所を知ってもらうことで、「何処そこの誰々」という形で地元に住んでいる人の頭の中に私達の名前情報と位置情報が対になってインプットされて、少しだけですが馴染みの関係ができたのかなと思いました。

左は御神楽の舞とお祓いの様子です。



ナワバリ

時間を戻して、2022年11月の末のことです。

9月に茅野市で仮住まいをしながら建築計画を進め、おおよその平面プランが決まったところで、土地に杭を打ってロープを張り実際の位置と家の大きさを決めます。これを「縄張り(ナワバリ)」というのだそうです。この語感にもよるのですが、これができた事でここは自分達の場所だという思いが強まりました。



ナワバリ（西側からの景色）

さてナワバリが終わったところで家造りが始まるのかというと、そうではなく、休止です。冬場は寒くて地面が凍ってしまい土が掘れないので寒さが和らぐ春までおあずけでした。その間は建築家と建築計画の擦り合わせでした。妻の陶芸工房と住居を予算内でどうやって両立させるかについての相談に地元の建築家の事務所に通いながら、その前後には森に行き、ナワバリされた地面に線を引いたり木の棒を置いたりして1分の1の絵を描いていました。まるでフルサイズレンドですよ。

水道工事

4月になって寒さがゆるみ出した頃、水道工事が始まりました。家を建てると思ったこの土地には水道がなかったんです。すぐ近くに家はなく約100メートルを自前で敷設しなければなりませんでした。またこの土地は水道の分岐点から10メートルほど上にあるので水圧と管の太さを確認してもらう必要もありました。

こういった訳で水道の分岐点から森の家に至る道に沿って(正確には、他人の土地に勝手に水道管を埋めるわけにはいかないので、道の境界線を出して道の中に)水道管を埋めました。そしてもう一つ水道管敷設に関してこの地域ならではの特徴がありました。それは埋設の深さです。冬はマイナス10度以下になることがよくあるので水道管が凍って破裂しないように温度変動が少ない地下1メートルくらいの位置に埋設しました。この深さは各町村毎に条例で決まっているそうです。



こうやって掘って埋めて、掘って埋めてという作業を行なって、水道が家の近くまで来たのでした。



水道工事と合わせて土地の区画の確認や上水・下水の引き込み位置の確認もやりました。



水道工事が終わって綺麗な道になった！、と思ったのも束の間、建築のための重機が入って来たので道は凸凹になっているのが現状の姿です。

ちょっと寄り道 縄文遺跡の発掘

5月6日にはこんなこともやっていました。
地元の考古館にて縄文時代の遺跡発掘のお手伝いです。

ここ諏訪地方は縄文時代の遺跡が数多く眠っている場所です。今私が住んでいる諏訪郡富士見町周辺にもあちこちに遺跡があります。縄文時代には日本一人口が多かったエリアだとも言われています。



甲斐駒ヶ岳を望む発掘現場

この地域の遺跡発掘のやり方は独特で、考古学の専門家やそれを専攻している学生が参加するのではなく、地元に住む人たちが発掘作業を行うというやり方を一貫して取っています。この人たちは「おらあとうの遺跡」(自分たちの遺跡)と言っています。もちろん考古館の専門家が発掘の仕方を指導・監督しているのですが、週に3日ほどですが地元の人たちと一緒に作業をしているとこの土地の成り立ちや地形の意味について考えが深まりました。

そしていちばんの収穫は遺跡発掘とはどういう事なのかということを知ったことです。発掘というと土器や石器を掘り出して復元して集めるということに目が行きそうですが、モノが重要ではなく遺物がどこからどんな状態で出てきたのかが重要で、出てきた土器片などは記録を終えるまでは取り出さずに埋もれた状態を維持したままその場所に残しておきます。このようにしてどこに何があったのかを記録することで縄文時代に生きていた人たちの生活の仕方やその広がりを考察することにつながるのだそうです。

もう一つ印象に残ったのは、引っ越しの際に縄文人達は今まで使ってきた土器を自ら壊して臼つ壊した土器片を周囲にばら撒くということを教えてもらいました。発見される土器の破片は自然に壊れたのではなく意図的に壊されたと言えるような壊れ方をしているのだそうです。縄文人は終生同じところに住まうのではなくある期間を経ると住居を移すらしいのですが、その引っ越しの時、今まで使っていて慣れ親しんだ道具をなぜ持って行かないのか、運ぶのが面倒ならそのまま放置していだけで良いのになぜ壊してしまうのか、ハッキリとした理由はわかりませんが日々の中に色々な節季を設けて気持ちの切り替えを図る日本人のエッセンスがここにもあるのかなあと思えました。

最後に発掘調査が終わるとどうするか？ トレンチ(溝)は埋め戻されてしまいます。遺跡を発掘することが目的ではなく遺跡を保存することが目的だからなんだそうです。と言うことで、住居跡や遺物を確認した後は埋め戻してしまいます。ほじくり返されて風雨に晒されて劣化するよりは、土に埋まっている状態の方が長く保存ができるからです。その土地には建物は建てずに草地になって看板が立っています。そんな場所があちこちにあります。

ちょっと寄り道でした。
次のページでは水道以外のインフラ整備について説明します。

インフラについて

2 ページ前に水道のことについて書きましたが、手に入れた土地には電気も来ていませんでした。整備されていたのは下水道だけ。とはいえ下水道があると言うのはラッキーなことなんです。別荘地ですら下水道がなく浄化槽で処理しなければならないところが結構あります。浄化槽の場合には設備導入のインシャルコストだけでは終わらず定期的にメンテナンスをしなければならないと言うマイナスポイントがあります。仮に近くに下水道が通っていたとしても下水は上水のように圧力をかけて送るのではなく自然落下で流れるものですから地形によっては流せない場合があります。我が家の場合は下水道の位置・地形に問題がなく下水に関してはすんなりいきました。この点についてはメダシでした。

3つ目のインフラ「電気」について

下の写真は仮説の電柱です。5 月末に立ちました。しかし、全く役に立ちませんでした。なぜかと言うと、近くに電柱がなかったからなんです。大工さん達が使う工具のために電気が必要なので仮説電柱を建てたのですが、電気が通ったのは10月31日でその時にはすでに大工さん達の作業は終わっていました。そういうわけで結局使わず仕舞で、邪魔っけな無用の長物がただ突っ立っていました。



電気を引くというのは水道のように業者に頼んですぐに作業してもらえるコトではなかったのです。水道を100メートル先から引いたように電気も100メートル先から引かなければならなかったのですが、電気が使えるようになるまでに5ヶ月もかかるとは建築家も思ってもいなかったようです。「森に住もう」と言う通り最寄の家から離れているのでインフラを自前で整えなければならませんでした。電気についていえば電力会社が全て面倒見てくれます。公共事業なので自前の出費はありません。

しかし逆に公共事業（お役所仕事）ゆえに各種の手続きがある事、景観に関する認可取得する事、電柱設置/架線設営などの作業が各種関連会社に枝分かれしていて動きが遅い事、そして電柱を建てる土地の地権者からの承諾の取得といったように私が知り得た業務仕分けだけでも上記のようなことがありました。そしてお役所仕事ゆえに幾らあおってもおねだりしても日程は変わらず、やっと電気が来たのは6月初めの申請からまるまる5ヶ月後の10月31日でした。その時は文明に触れることができた喜びでひとしおでした。森の家の文明開化です。

では電気が通るまでの間に建築作業をやっていなかったのかと言うと、大工さんや業者の日程を遅らせる訳には行かないので、休む事はできません。大工さん達は発電機を持ち込んで工具を使っていた、また私達もハーフセルフビルドの家なので大工さんが帰った後に作業をするために発電機を買いました。下の写真は夜の作業の様子です。この記事の初めに外壁貼りが終了と書きましたが、室内の壁貼りも私達の担当なのでこちらもボチボチ進めています。



9月ごろの夜の様子です

ここまでのまとめ

今回は主にインフラ関係についての報告でしたが、これから森の中に住むことを考えている方々への参考情報になれば幸いです。都会のように上下水道・ガス・電気がすぐにつながる土地と違い、時間と手間とコストがかかることを知りました。

一足飛びに9月の写真を載せましたがこの間の6月/7月/8月には家造りの大イベントである基礎造り～棟上～室内の施工などが続きます。その間の顛末は次回第3報で報告したいと思いますのでお待ちください。

to be continue till the end of our life